

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572109445		
法人名	ヴォルフアート株式会社		
事業所名	グループホームほおずき		
所在地	秋田県北秋田郡上小阿仁村小沢田字向川原213番地4		
自己評価作成日	平成28年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほおずきの理念「住み慣れた村で好きな物や好きな人に囲まれ、人生の選択をする喜びを持って頂けるよう、スタッフが傍にいて優しくご支援させていただきます。」を掲げており、その人らしく生活出来るようご支援させていただいております。個々の状態に合わせ、毎日の余暇活動に軽体操や歌、時には読み聞かせや手作業として、折り紙、塗り絵、貼り絵など行っております。天気の良い日はドライブに出掛けたり、地域のイベントに参加したりしていません。季節に合わせた行事の企画を行っており、ご家族様にも参加させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

消防署や診療所、保育所、図書館等公共施設が集まった場所にあり、何かあった時でも安心感のある施設である。
職員は、くつろぎや自分らしさ、結びつき、携わること、共に有る事を大切に、日々の生活に実践している。
管理者が変わり、今まで大切にしてきたことを土台に、本社や系列施設の協力も得ながら、更なる成長を目指し努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に1回理念を振り返る内部研修の機会を持ち、これまでの良い点・課題点を抽出、事業所の目標を明確にし代表者・管理者・職員がそれぞれ共有・実践している。	理念に関連し、「ほおずきで大切にしたいこと」を職員全員で考え、意見を出し合い、自分たちのわかりやすい言葉で作成し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の保育園の行事や村主催の敬老会など声を掛けて頂き、地域からの配慮を頂いている。	隣にある保育園のお遊戯会や運動会に皆で参加したり、地域の障害学習センターで行われているカラオケ大会や郷土芸能大会に参加したりと、地域との交流を大事にしている。	介護度が高くなると外出する機会が少なくなり、地域との交流が減ってしまう事が考えられる。バーベキューや敬老会等、施設内の行事に町内の人が参加しやすい環境作りに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	機会は少ないが、相談があれば施設訪問の際・電話などで対応させて頂く体制はある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での出来事、取り組みについて報告を行い、ご利用者様やご家族様、運営推進会議委員、地域の方よりご意見アドバイス頂きながらより良いサービスの提供に努めている。	運営推進会議では活発に意見交換がされており、「利用者が一人で外に出た時に、堰に落ちてしまうのではないか」との意見に、柵を作って対応するなどしており、サービス向上につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時情報交換させて頂きながら連携し、利用者様の生活の質の向上に努めている。	待機者等について、情報交換を行っている。また、図書館から絵本や紙芝居を借りて、利用者提供するなどして、村の公共施設との交流は密になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きを使用し、全ての職員が内容を正しく理解しており、日中は施錠していない。内部研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束の事例は無い。外部研修の機会は取れていないが、毎年内部研修を行い、職員が内容を理解できている。マニュアル等もきちんと整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で職員全体へ周知している。不適切な対応の無いようケア会議の機会を設けてチェックし、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、地域福祉権利擁護事業による日常的金銭管理通帳等の保管を行っている利用者があり、毎月、上小阿仁村社会福祉協議会に預り金の収支と施設利用料金の詳細を提出し報告させて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明の時間を設け、丁寧に説明している。不明な点があれば、詳しく伝えるよう、心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会の際はスタッフが必ず声を掛け、ご意見を聴くよう努めている。必要な場合は役場・包括支援センター等へ相談できる事を、契約時に説明している。	前回の調査時、ご利用者の意見を企画に盛り込み、利用者主体の行事を開催するとの目標を掲げ、個別に意見や希望をうかがう機会を持ち、バーベキュー会や敬老会を開催し喜ばれたとのこと。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議を開催し、又、必要に応じ随時会議の機会を設け、職員が進行役となる事で活発な意見交換があり、話し合いの中での意見や提案をその日から活かす取り組みをしている。	月に1回の職員会議の時に、利用者の状況についてベッドから布団への変更を検討したり、服薬の仕方や声掛けの仕方等、細かい所まできちんと話し合い、日々の生活に反映させている。また、関連施設内での職員異動希望等にも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入しており、職員一人一人が向かう目標や課題を明確にし、互いに向上心を持って働けるような環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を開催し、職員のスキルアップにつなげている。外部研修へも参加する機会を持ち、更に伝達研修で全職員へ周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣町のグループホームとの交流があり、情報交換し、優れている点はお互いに取り入れながら、サービスの質の向上へ繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に不安に思っている事、分からない事等引き出しながら、一つ一つの事に対しゆっくりとお話を聴き、お気持ちを共有する事からはじめています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前後に十分に話し合う時間を確保し、不安な事や、要望をお聴きして、今後のホームの対応やご本人の状態を面会時にまた、面会に来られないご家族様へは電話やお手紙でお知らせし、安心に繋がられるよう支援している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の声に耳を傾けて、ご本人のおかれてる状況や精神状態の把握に努め、ご利用者様の目線で何事も進め、共に生活を楽しめるよう工夫している。理念構築の際は、スタッフ自信がもし認知症高齢者だったら・・・という視点からご利用される方の立場となり考える機会を頂いている。		
18		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の思いを汲み取りながら、スタッフと家族様が相談しあってケアの方向性を見い出したり、その都度情報交換しながらケアに参加して頂いている。また、ケアプランにもご家族様との会話や面会が持てるよう組み込ませて頂いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意思を尊重しながら、ご自宅周辺までドライブに行ったりと個々の要望に合わせてご支援させて頂いている。また、大切な方の火葬等への付き添いをさせて頂いた実績がある。	移動美容室を利用している方もいるが、個々の美容室への送迎の支援を行っている。また、お店での買い物等、利用者の個別性を重視した支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者様同士と一緒に食事をしたり、会話を楽しめるよう環境にも配慮しながら、スタッフが間に入り良好な関係作りが出来るよう対応行っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大半が入院されての契約終了であり、次の行き先が決まるまで居宅介護支援事業所の担当ケアマネージャーと連絡を取り合いながら経過フォロー行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	6か月に一度プランの見直しを行い、定期的に思いや希望、意向の把握に努めている。コミュニケーションを大切にし、対話の機会を多く持つ事によって、日常の中から思いや希望を汲み取るようにしている。困難な場合はご家族様から情報を頂いたり、今までの生活ぶりから検討させて頂いている。	日々の会話の中から汲み上げたり、家族に確認したりして把握に努めており、月1回の職員会議で職員間で共有している。くつろぎや自分らしさ、結びつき、たずさわる事、共に有る事を大事にしながら実践している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様より、基本調査として生活歴をお伺いし、面会の際もどんな生活をされていたのか、生活ぶりや家族の中でのエピソード等聞かせて頂いている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の活動や、ご本人の状態が分かる記録を心掛け、一人一人の生活リズムやパターンの把握に努めている。現状に合わせたケアが行えるよう、ケースカンファレンスを都度行っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の思いを計画に反映出来るように作成時取り組み、実現可能な範囲での計画書となる様、ご本人・ご家族様と話し合いを行っている。	以前は担当制を採用していたが、現在は全職員で全利用者を把握し皆で共有し、計画作成者に伝え、計画書を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パートナーの気づき、ケアプランの実施状況を記入、チェックする欄を設け、過去一か月の記録を事務所の手の届きやすい場所に置き、情報をスタッフ間で共有している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの人間関係の中で、周囲の見守りも得ながら、ホーム周辺にて夕涼みされている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力病院をかかりつけ医としているが、ご希望のある方は隣町の病院への受診対応をさせて頂いている。また、必要があれば相談に乗って頂いている。	隣に診療所があり、職員付き添いで受診しているが、五城目町等、遠い病院へも受診支援している。薬局も近くにあり、わからない時など直接訪問し、助言していただいている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が中心となってご利用者様の心身の状況をつと准看護師へ報告、指示を仰ぎ状況変化時には受診と日々の看護を適切に行う事が出来ている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は面会時や担当看護師へ電話連絡するなどして、都度状況の把握に努め情報交換、ケースカンファレンスにて医療機関とホームとが同じ方向性を持って、ご支援出来るよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際、重度化及び急変時の対応をどうされるか、ご家族間で話し合ってもらえる様ご説明させて頂いている。また協力病院や主治医とも連携をとりながら支援させて頂いている。	看取りは行わない方針であり、入所時にきちんと説明している。隣に診療所があるが、緊急時は救急病院へ搬送している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	准看護師1名、他10名のスタッフのうち上級救命講習受講者4名終了されている。他スタッフも全員が救命講習を受けられるようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日勤帯・夜間帯想定訓練を実施し、地域の方にも参加頂きながら、避難方法を全スタッフが身に付けている。	今年は何日程の調整が難しく、消防署立ち合いの訓練を行うことは出来なかったが、施設主体の避難訓練には、民生委員や自治会の方等、近所の方の参加もあり、協力体制もできている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つける事の無いよう、言葉掛けに配慮を行いプライバシーが保たれるようケアさせて頂いている。	排泄時や入浴時は特にプライバシーが保たれるよう声掛け等に配慮している。また、大事な話は居室で行うなど、細部にも気を配っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや対応が誘導的にならないよう配慮し、ゆっくりと利用者様のお話に耳を傾け、思いを引き出している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活リズムの中で食事の時間は概ね決めさせて頂いているが、ご本人の状況や希望に応じて臨機応変に対応させて頂いている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院、理容店への送迎を行っている。服装もご本人と一緒に選んだりするなどして支援させて頂いている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の仕方をご利用者様へ聞いたり、体調に合わせて下準備をお手伝い頂いている。畑から収穫した旬の野菜を使用するなどして、食事を楽しんで頂けるような工夫を行っている。苦手な食材があれば他のもので代用するなどの配慮行っている。	畑にはカブや大根、ネギ、人参、ジャガイモ、サツマイモ等植えており、利用者も植え付けから草取り、収穫まで参加し、季節を感じた食事作りを行っている。行事食では夏は季節のてんぷらや素麺、秋は新米できりたんぼ、だまこ、キノコの炊き込みご飯を楽しんでいる。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立を使用している。食事、水分摂取量を一日の記録に記載し、一日のトータル、一週間のトータルとして、状況を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に合わせ、毎食後口腔ケアを促し、一部介助にて口腔衛生を保っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表へ時系列で排泄間隔を記入し、排泄パターンの把握に努めている。排泄介入に抵抗のある方へは様子をみながらさりげなく介入させて頂いている。	排泄記録をもとに、基本的に日中はトイレでの排泄誘導をし、毎回では無いが、トイレ排泄が成功している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れ、一日一回乳製品の提供を行っている。また、毎日の体操などを便秘対策のアプローチとして行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回以上、その方の心身の状態に合わせた方法(時間・福祉用具の活用・声掛け)で入浴頂いている。時間帯は午前と決めさせて頂いているが、場合によっては午後に入浴行わせて頂くときもある。	基本的に1日3名程度と入浴予定を立てているが、状況に合わせ対応しており、毎日入浴が可能となっている。入浴拒否する方も、職員の声掛けにより、無理強いせず入浴できている。入浴時間を午前と決めてからは、午後からゆっくりと利用者と接する事ができるようになり、良かったとのこと。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、就寝前のお手伝いをさせて頂いたり、休まれる前にゆっくりと関わる時間を持つようにしている。日中の休息も個々の体調等に合わせながらとって頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個々の薬ケースに入れ、スタッフが常に内容確認できるように工夫し、個々の内服薬の目的、副作用、用法を理解している。Dr.薬剤師よりその都度詳しく説明して頂いている。内服変更時等、統一して様子観察行い変化のある際Drへ報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農園活動では野菜の育て方等を利用者の方達に教わり、また成長や収穫までの過程・獲れたての野菜を献立に取り入れ、ご利用者様へ楽しんで頂いている。個々にお手伝い頂けることは行って頂き、ご利用者様の意見を取り入れた行事の企画も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族・ご本人の希望があればいつでもご自宅に行けるようにしている。他個々の行きたい所の希望をお聴きしながらドライブを楽しまれたり、馴染みの理美容店等へ送迎、付き添い行き、出来る限りのご支援をさせて頂いている。	職員の付き添いのもと、いつでも自宅に行く事ができている。ドライブでは、森吉ダムや菜の花畑、あじさい公園、近所の公園に花見に行ったりし、できる限り外出の機会を作るよう努力している。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や能力に合わせ、ご家族の方の理解を得ながらお金の所持、使用の支援を行っている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から電話希望があれば、いつでも対応させて頂き、ご家族との繋がりを大切に頂けるよう配慮している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔でシンプルな物品配置にしている。各居室、リビングにはエアコンを設置し温度差の無いよう配慮している。他季節を感じ取って頂ける様展示物などに季節感のある物を取り入れさせて頂いている。	庭で採れた花やご家族が持ってきてくれた花を飾ったりして季節感を出している。また、利用者の作った塗り絵や折り紙等を利用者と一緒に壁やガラスに飾っている。トイレの匂いに気を配っており、消臭剤を使用したりして、臭いが気になる事は無かった。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けのソファを3シート設置しており、気の合う方同士、又は一人でゆっくりと過ごして頂けるよう環境整備している。玄関先には長椅子を設置し、近所の方との交流もみられ気分転換の場所となっている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用開始時に、ご本人・ご家族様へ使い慣れた物品をお持ち頂き、居室へ取り入れて頂けるようお話しさせて頂いている。遺影や信仰している宗教の神棚を設置されている方もいる。	自分でできる事は自分で行ってもらっており、部屋の掃除も、職員と利用者が一緒に行っている。利用者は自由に使い慣れた家具を持ってきており、仏壇を持ってきている方には毎朝、仏壇へ備えるご飯の準備を手伝っている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合わせ、危険のない範囲で物品配置を行ったり、スタッフが事前に準備する事でスムーズに動作できるよう工夫している。		